**学校作成**

**毎年更新**

　　　**７　防災教育の計画等**

）

**１　防災教育の計画**

作成例

**（１）教職員の研修計画**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 日時 | 内容 | 対象 |
| ●月●日（●） | 防災講話 | 教職員、保護者、学校評議員 |
| ●月●日（●） | ＤＩＧ | 安全担当の教員 |

*※留意事項　高等学校と特別支援学校分教室は、研修等を通じて、緊急時の対応についてお互いに確認し、共通理解、役割分担をしておくことが重要です。*

作成例

**（２）児童生徒等の防災教育計画**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 日時 | 内容 | 対象 |
| ●月●日（●） | 起震車、発煙車による体験 | １学年（●名） |
| ●月●日（●） | 学校周辺の●●、●●等を記入した「防災マップ」作成、●●が記載された「ハザードマップ」による立地条件の確認 | ２学年（●名） |
| ●月●日（●） | 防災週間を定め、ＳＨＲで地震や防災について学習 | ３学年（●名） |

作成例

**（３）学校の防災訓練計画**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 日時 | 内容 | 対象 |
| ●月●日（●） | 地震避難訓練、地区別下校訓練 | 全校（●名） |
| ●月●日（●） | 教職員による学校地震災害対策本部訓練（卓上訓練）、防災資機材確認及び使用訓練 | 教職員（●名） |
| ●月●日（●） | シェイクアウト訓練 | 全校（●名） |

*※留意事項　津波の被害が想定される学校では、あらかじめ避難経路や避難場所を定め、教職員及び児童生徒等に周知徹底を図るとともに、訓練を行うことが重要である。学校施設以外に避難する場合は、その施設所有者と事前に調整を行う必要がある。*

作成例

**（４）地域と連携した防災訓練計画**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 日時 | 内容 | 対象 |
| ●月●日（●） | ●●自治会による炊出し訓練 | ●●自治会、管理職、安全担当の教員、生徒会 |
| ●月●日（●） | ●●市の総合防災訓練、●●消防署による応急救命訓練（ＡＥＤ、三角巾、毛布などを使用した応急手当など） | ●●市、●●小学校、●●部の顧問の教員、部員の生徒 |
| ●月●日（●） | 地域貢献週間に近隣の●●保育園を訪問し、保育園の避難訓練に参加 | ●●保育園、●●部の顧問の教員、部員の生徒 |

*※留意事項　地域との連携の必要性は、避難所の有無に関わらず、災害時には地域住民が学校に避難して来る事が予測されますので、日頃から仲の良い関係構築が大事です。また、地域と仲良しならば、児童生徒等が、登下校時等先生方の目が届かない時に災害に遭った時、地域の人に助けてもらえるかもしれないとの期待が生まれます。お互い様の関係作りが必要です。*

*地域の方々と、当マニュアルや学校にある防災資機材を共有したり、地域の防災マップを一緒に作成したりするなどの取組も地域との関係が良くなる手段と考えます。*

作成例

**２　保護者への連絡方法**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項目 | 内容 | 備考 |
| 連絡方法 | 民間のメール「●●●●」 |  |
| 登録者数 | ●●名 | 全校の●％ |
| 連絡内容 | 災害時の情報、臨時休業・始業時間の繰下げ、スクールバスの遅延 |  |
| その他の手段 | 連絡網により電話連絡 |  |

*※留意事項　地震発生時の不安を少しでも解消するため、学校の防災体制（防災訓練、地震発生時の児童生徒等の行動、帰宅方法、保護者への連絡方法等）について、保護者（児童生徒等）に通知や教育カリキュラム、ＰＴＡ総会等を利用して周知する。*

**３　学校周辺のハザードマップ・防災マップ**

*※留意事項　各市町村が作成しているハザードマップや防災マップ（一定の条件下での被害想定や危険箇所や避難場所等を示した地図）をもとに、通学路の危険箇所、立地の地理的特徴による危険性、学校以外の避難可能場所等を地図上に表示して添付する。*

*機会を捉えて児童生徒等へも周知する。（各市町村がハザードマップや防災マップを作成していない場合などで、学校が独自に調査作成する際は、危険と思われる箇所（例えば塀や建物）の所有者にも十分配慮したうえで作成する）*

*※学校敷地内及び学校周辺（通学路や主要な道路等）に津波浸水区域や洪水浸水区域、土砂災害警戒区域がある場合は、当該区域が明示されているハザードマップ等を添付する。*